

図書館ひろば



第11回「図書館ひろば」開催

2019年11月24日(日)、第11回「図書館ひろば」が市立図書館にて開催されました。

古本市は4回目になります。前日までに多くの本のご寄付をいただきました。寄付してくださった方には優先入場券を差し上げました。当日開始30分前から、優先入場を待つ長い列ができましたが、混乱もなく入場、観覧していただきました。寄付された本たちを新たな読者のもとへと届けることができました。



視聴覚室では、例年大人気のおはなしワニーズさんの「布絵本・おもちゃ展示とおはなし会」が行われました。



中集会室では10時半から本の修繕、工作教室、点字の体験コーナーが設けられました。

本の修繕実演では、見学者が実際に糸綴じの修理を体験しました。嬉しいことにボランティアスタッフに2名の申し込みもありました。



工作教室では相模女子大学宮原研究室の学生さん3名に手伝ってもらい、毛糸のポンポンを使ったヒヨコやクリスマスツリーを作りました。お子さんから大人まで参加して下さって、14時前には材料がなくなり、店じまいとなりました。



点字体験では、点訳奉仕団の方の明解な説明と、参加者のコトコトと点字を書く良い音が聞かれました。視覚障害当事者でつなぐ会のメンバーが点字の辞書や触って読む「触地図」などを持ち込み、普段どのように点字が活用されているかのリアルな話題に、皆興味津々でした。また小学生がモクモクと点字で思い思いのこと（円周率の数字など）を書いている姿も印象的でした。



「交流の部屋」会場の中集会室壁面には、図書館などを活動拠点としている8団体の活動紹介展

示、廊下では市立図書館1年間の活動紹介パネルを掲示し、通る人の興味を引いていました。

また14時半から中集会室「交流の部屋」で展示に参加した8団体のメンバーと市立図書館職員1名の23名が集まり、交流会が開かれました。各団体、日ごろどのような活動しているかなど、情報交換をおこないました。交流会は初めての試みでしたが、参加団体の方々と横のつながりができたのではないかと思います。



古本市 報告

寄付冊数:4314冊

来場者数と持ち帰り冊数:203人/2315冊

寄付金額:22585円

相模原市に全額寄付させていただきました。

ご協力ありがとうございました。



「ひろば」交流会 報告

交流の部屋では、日頃から図書館関連事業などで活躍されている図書館利用登録団体の紹介コーナーを展開しました。広く図書館利用者に活動内容を知っていただくとともに、各団体と図書館やつなぐ会との交流を深めたいと思い企画しました。終日中集会室でパネル・パンフレット・冊子などを展示しました。

また、今回は初めて参加団体との交流会も開きました。つなぐ会の代表が挨拶をしたのち、各団体から日ごろどのような活動をしているか、図書館をどのように活用しているかなどをお話いただきました。みなさんの幅広い活動を確認したところで、これから、さらに横のつながりができるような提案がないかを伺いました。

- ・「展示のブース」をもう少し見やすくなるような工夫がほしい。
- ・各会の紹介を 1 枚のプリントにまとめて配布する
- ・類似性のある団体は分科会的に集まる。
- ・市立博物館で行っている「みのりの収穫祭」のよう
な形で実行委員会を作って自主的な発表の場を作る。

展示の改善策など、今後の参考になるような積極的な意見が出ました。

【参加団体紹介】

「相模原郷土懇話会」

昭和 30 年に相模原を中心とする郷土文化を研究し、地域社会の発展に貢献することを目的として設立。

「相模文芸クラブ」

年 2 回文芸誌『相模文芸』を発行。小説、エッセイ、詩、などの作品を掲載。

「はやぶさ句会」

大野公民館の「はやぶさ塾」から発足。会員は現在 13 名。

「相模原市録音奉仕会ひばり」

視覚に障害がある方などから依頼された本や市から委託を受けて広報などを音訳している。

「おはなしワニーズ」

手づくりの、布壁シアターやエプロンシアターを使っておはなし会をしたり、布えほんや布おもちゃを作成・展示している。

「相模原市拡大写本赤十字奉仕団」

活字が小さいと読みにくい、弱視の児童生徒向けに拡大写本教科書を作成している。

「絵本 de あい ブックリボン」

「ブックチャンス」で活動していたボランティア達が、らいぶらいぶから引き継いで設立。

「てぶくろの会」

おはなしボランティア基礎講座のメンバーで、読み聞かせの勉強会などを行っている。

ウィキペディアタウンさがみはら@橋本 開催

「ウィキペディアタウン」は地域情報を地元の人
の手で世界に発信し、地域おこしにつなげるイベントです。わからない言葉を検索するときにお世話になるウィキペディア。それを編集することで、仕組みを学び、さらに情報発信を行う活動を、3 月に橋本図書館で開催します。相模原市では初の試みです。興味のある方はぜひご参加ください。詳細、申し込みは 3 月 1 日発行の「広報さがみはら」をご覧ください。

第2次相模原市図書館基本計画(案)に 関する意見提出

相模原市から「第2次相模原市図書館基本計画」に関するパブリックコメントが募集されました。つなぐ会として以下の項目に意見を提出しました。

相模原市図書館の現状、運営体制

利用環境の充実

多様な利用者に向けたきめ細かいサービスの充実
本屋人との出会い、交流の創出

子どもが読書を楽しみ「生きる力」を育む図書館

成果指標、利用者の満足度

次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり 市民検討会に参加して その3

第6回 10月7日(月)19:30~

「委員アンケートの結果報告」「有識者協議会協議の結果報告」「今後の進め方」「オープンアンケート」について報告中心の会合でした。事前に、アンケートをとったので、この話題に基づいて、話し合いがあるのかと思いましたが、さらっと報告されただけだったので、多数の委員から、「このアンケートをどう考えるのか?」と意見が上がりました。

第7回 11月9日(土)9:30~

「オープンアンケート・市民アンケート」「課題整理」「委員アンケートを踏まえた検討パターンについて」の報告がありました。

第8回 12月21日(土)9:30~

事前に各人が施設配置案を検討し、作成する宿題が出されました。当日、日本大学理工学部まちづくり工学科の押田佳子先生の「公園からみるまちづくり」の講義が行われました。内容は「公園の歴史や意義を紹介し、都市公園における景観形成の考え方、公園からのまちづくりについて」でした。その後、グループワークとして、各人の持ち寄った施設配置案を説明して終わりました。

第9回 1月25日(土)9:30~

最初に東海大学工学部建築学科の野口直人先

生による「これからの社会の文化的施設のあり方」の講義がありました。内容は、これまでのワークショップから「建設の形式、周辺環境との関係が重要であり、人々の活動を豊かにするものである」という考え方と、例として「ロレックス・ラーニングセンター(スイス)」「武蔵野プレイス」「イビラブエラ公園(ブラジル)」「JUNKO FUKUTAKE ホール」の映像を紹介されました。これらはとても独創的で美しく、建物の可能性、芸術性を見せてくれるものでした。その一方、市役所職員からは、「自分の家を建てる時、何をするか」「(仮)相模原市行財政構造改革プランの策定等について」という資料の配布があり、予算のない現実を突きつけられました。専門家の立場から、現実的に有用な例も紹介してほしいと、委員から野口先生に要請しました。その後、第8回で提出された18案を、分散型、公園型、図書館型、公民館型の4つに分類してまとめ、課題をあぶり出そうと試みましたが、それぞれの観点が違ったりするので難しく、時間も足りず、次回に持ち越しとなりました。

結局、このまちづくり建て替え等の予算は、複合化して土地などを売却しないと、その費用が工面できないようです。

次回は、2月29日(土)の予定です。委嘱期間から考えると、最後となり、今後どうなるのか、まだまだわかりません。

編集後記

第11回の「図書館ひろば」では、中集会室がとても賑わいました。工作、修理、点字など体験できることがよかったのでしょうか。参加者の方が笑顔で手を動かす姿。とても楽しそうでした。(Y.N.)

図書館ひろば 第24号 2020年2月15日発行

〒252-0302 相模原市南区上鶴間4-23-3 Tel 090-4947-7147 (代表 山本)

Email info@toshokan.org ホームページ <http://toshokan.org/>